西日本新聞（夕刊）　2016年（平成28年）10月15日　土曜日

フェース

聴覚障害 コミュニケーション模索

自身を主役に自転車で日本縦断する ドキュメンタリー映画を撮影した

今村（いまむら） 彩子（あやこ）さん

自分を映画の主役にしたのは初めて。耳が聞こえない中でどう他人と付き合うか、模索しながら自転車で日本を縦断した57日間を記録した。「コミュニケーションが苦手だったり、自分に自信が持てなかったりする人に、また頑張ろうと思ってもらえたら」と話す。

生まれつき両耳が聞こえない。映画監督を志して米国の大学で製作方法を学び、ろう者や難聴者をテーマにドキュメンタリーを撮ってきた。

旅のきっかけは、読み書きを教え社会との懸け橋になってくれた母の死。ショックで死にたいとさえ思った。好きな自転車で旅し、心のどこかで避けてきた健聴者とのコミュニケーションを見直せれば、再び前向きに歩きだせるかも。それを作品にしよう。題名は「Start Line」。

同行者は、自転車店で働く友人の堀田哲生さん(41)。健聴者との会話に気後れする今村さんに「耳が聞こえないことに甘えている」と叱咤（しった）し続けた。時にぶつかり涙を流したが、それでも懸命にペダルをこぎ続けた。

編集作業できれいにまとめないようにし、ふがいない自分の姿を残した。「『できなかった』というのが旅の本質だったから。でも、スタートは何度でも切れると分かった」。試写会では健聴者と難聴者を問わず「自分と重ねて見てしまった」と共感の声が相次いだ。

「旅を通して気負わず健聴者に話しかけようと思うようになった」。今後は聴覚障害にとらわれず映画を撮るつもりだ。名古屋市で父親と祖母、愛猫と暮らす。37歳。